

■ 目次

博物館開館15周年／旗野裕之・旗野マキ子阿賀野市立吉田東伍記念博物館基金事業「庭園能」が開催されました！	…… 1
秋の研修旅行 鶴岡市「黒川能」を鑑賞するバスツアー	…… 1
会員随想「研修旅行の記」	…… 2・3
会員随想「とんとむかしを聞く会」／サロンコンサート vol.10／編集後記	…… 4

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1 (阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 <http://wind.ap.teacup.com/togo/>

博物館HP http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html **E-mail** y.togo@oregano.ocn.ne.jp

博物館開館15周年／旗野裕之・旗野マキ子阿賀野市立吉田東伍記念博物館基金事業

「庭園能」が開催されました！

9月1日(土)夜7時開演で、吉田東伍生家を会場に「庭園能」が開催されました(主催：阿賀野市教育委員会)。津村禮次郎氏(観世流緑泉会、重要無形文化財(能楽総合)保持者)を中心とした幽玄な能の世界。満席の観客約200名が、阿賀野市初の本格的な能楽公演を堪能しました。友の会会員も駐車場係や受付として公演に協力。演者・観客・運営スタッフ、そして、吉田東伍生家という場が一体となって、一期一会の時間空間を創り出していました。



▲能「半部」

「庭園能」公演記録

お話 「能の楽しみ」 津村禮次郎
 仕舞 敦盛 古川 充
 土蜘蛛 中所宜夫・桑田貴志
 囃子実演とお話
 能「半部」 里女・夕顔の精 津村禮次郎
 僧 安田 登
 笛 栗林祐輔
 小鼓 飯富孔明
 大鼓 高野 彰
 地謡 中所宜夫・古川 充・桑田貴志

秋の研修旅行 鶴岡市「黒川能」を鑑賞するバスツアー

期 日／平成24年11月23日(金祝)

集 合／午前7時：阿賀野市安田体育館駐車場
 午前7時30分：新津駅西口

行 程 (予定)／

7:00 安田体育館駐車場 → 7:30 新津駅西口 →
 磐越道・日東道 → 9:00道の駅朝日「みどりの里」 →
 10:30 春日神社／黒川能の里・王祇会館(会場)着・昼食(各自持参) →
 11:00 開演(15:00終演予定) → 15:30 出発 →
 → 19:00 新津駅西口 → 19:30 安田体育館駐車場着

演 目／能「井筒子」「石橋」
 (予定) 狂言「柿山伏」

黒川能は、国の重要無形民俗文化財に指定され、春日神社の新嘗祭の神事として上演されます。集落の皆さんが守り続ける伝統芸能を、紅葉の風景とともに楽しみませんか。

参加費 (玉串料・バス代等)／会員9,000円、非会員10,000円

※昼食は各自持参ください(途中、買い物休憩をとります)。
 ※玉串料(5,000円)には、能の鑑賞料と、御札・お神酒・神饌・解説書が含まれます。
 ※当日入会も可能ですのでご家族・ご友人などお誘い合わせのうえで参加下さい。

定 員／25名(先着順)

申し込み／11月16日(金)までに友の会事務局へ電話・FAXでお申し込みください。申し込みの際に集合場所をお知らせください。

研修旅行の記

友の会会員 宮田 清三郎 (みやた せいざぶろう)

7月4日(水) 一日目

8時、新津駅発。8時半、安田体育館出発。参加者は、名誉館長・吉田ゆき様をはじめ26名。田中洋史氏の司会・案内で磐越道～東北道をゆったりとしたバスで走る。

会長のあいさつ。『大日本地名辞書』よりの「陸前宮城郡」のコピー(10頁)、渡辺史生氏が用意してくださった吉田東伍の「貞観地震研究」(16頁)の資料が配布され、研修のコース、見学地の説明がされた。学習意欲が自ずと高まって来た。

塩釜、昼食 近づくにつれ、右に左に災害の跡が見られる。荒れたままの田畑。道路を境に免れた地。「武田かまぼこ店」で昼食。壊滅的な被害、復興・再開までの努力、苦労の話を聞く。笹かまぼこを作る工程を見学し、諸々のことをかみしめ食事をする。

塩釜神社 安全、有意義な研修を祈願した。私は、謡曲「松風」の「千賀の塩釜」という詞を浮かべ頭を垂れた。

末の松山 多賀城市に入り、細めの道を通り、歌枕として有名な地をめざす。「契りきなかたみに袖をしぼりつつ 末の松山波こさじとは」(百人一首42)。

この歌の解釈に、東伍の論文で見直しが始まったとの渡辺氏の資料を頭に入れ、見学する。地元の観光ボランティアガイドの三宅洋司さん、市の災害の様子、復興の現状の話から、手作りの大判資料で、歌にまつわる歩み、近くにある歌枕の地、丘の上にあるみごとな大松、奥の細道の一節まで、ユーモアたっぷりにガイドされた。大事にされている二本の松を背に、記念の集合写真となった。

丘下の町並みに背丈ほどの津波の跡筋が続くを見るに、丘上の松を振り返ったりした。

東北歴史博物館 東北地方全域に関わる博物館。後期石器時代から現代まで、時代別に九つのコーナーに多数の資料がわかりやすく展示。じっくりと見るには時間がない。三つあるテーマ展示室のうち、「郷土玩具」に入り、楽しんだ。

多賀城廃寺跡(国特別史跡) 奈良時代、多賀城の付属寺院として建立。広い境内にいくつかの伽藍や僧坊、三重の塔の跡が整備され、公園となっている。礎石の残っている小高い塔の跡に立ち、往時の寺を想った。

多賀城跡(国特別史跡) 多賀柵ともいう。724年、陸奥国府として築かれ、奈良・平安時代の10世紀中頃まで栄えた。政庁を中心に役所・工房・兵舎などを900mの築地・材木堀で囲まれた古代東北の政治・軍事の拠点であった。

昨年の震災被害の復旧工事に合わせ、正殿の発掘調査が約40年ぶりに5月から始まっていた。正確な記録をとるとのこと。新しい発見、資料が期待されている。

いにしえに栄えし柵は去り難く

想いをめぐらし礎石にふれぬ

この城跡でも、ガイドの三宅さん、手づくりの資料でユーモアのある解説が続いた。

多賀城碑(国重要文化財) 江戸前期から「壺の碑」の名で広く知られている。つくられた年・人物・里程、修理など当時の国内外の情勢を知る貴重な資料となっている。がっちりとした建屋の中にあり、周りはきれいに整備されていた。

咲き盛るあやめ園を遠望し城跡をあとに、宿泊地へのバスに乗った。

松島(宿泊) 少し早めの夕暮れ時、松島に入る。穏やかな海、松のある大小の島々。災害を忘れさせるような風景を眼に、宿の松島センチュリーホテルに入る。男性2部屋、女性3部屋。早速に温泉に浸り、疲れをとる。

6時半より夕食。副支配人さん自ら三味線を抱えて地元の民謡を、衣装変えて祝い歌と大歓迎があった。お互いに酌み交わし、知り合いを深め、宴を楽しんだ。

部屋に帰り集い、更に飲み物を重ね、遅くまで学習・歓談が続いた。

7月5日(木) 二日目

松島の朝 5時前に起床。温泉に入り目覚めさっぱりする。雨になりそうなので船に乗っての島めぐりは中止。残念なれどゆっくりの朝となった。人それぞれに散歩に出る。

300mほどの海上橋を渡り、福浦島を散策する。眺望良き所があり、島々を眺め爽快であった。戻り、瑞巖寺前へ行ってみた。修理の工事中であった。

7時の朝食後もゆったりし、9時半にホテルを出発した。

宮城県図書館 利用しやすくなった泉区の住宅街にあり、しかも周囲は多くの樹木がある。平成10年に開館。縦200m、横100m、四階建。蔵書数30万冊という。

震災時の職員、入館者の退避の苦勞。館内図書の倒れ、散乱の様子などを聞く。図書の復旧、館の再開に2か月余りかかったとのことであり、その教訓を生かすよう努めているとのことである。

今回の大震災をはじめ災害に関する特別のコーナーが設けられていることが、館の特色となっている。貞観地震、新潟地震をはじめ近年の多くの図書・写真・記録・新聞など多様な資料がある。今後とも充実を図ると話があった。

特別室もいくつかある館内を、説明を聞きながら巡った。特別展として「漫画家の祈りと激励」で色紙40枚ほどの展示があった。

青葉城～帰路 城への登り道、道路や石垣の補修工事が何か所も見られた。バスの登りも通常の道ではなかったという。本丸会館で少し遅めの昼食。おみやげ買いの時間。雨で城巡りはできなかったが、ここでもゆったり。またボランティアガイドの話をつっぷり聞いたという人らもいた。14時半、団体の外国人さんらと手を振り合い、城跡を後にした。

バスが県内に入るや、二日間の感謝、庭園能など今後の計画の紹介があり、18時に安田に、その後、新津に無事到着。解散した。

東伍の貞観地震研究の先見性、郷土の地理・歴史の見直しの意義(渡辺氏の資料)を学習したこと、東伍の偉大さをあらためて知ったこと、一部の地であれ大地震の当時の様子、現状を見聞できたことなど、この旅行で多くの良き学びがあった。

多くの準備と案内して下さった渡辺氏、田中氏に厚く感謝申し上げます。



▲「末の松山」にて

…… 友の会伝言板 …… 事務局より

- 1 今年度の会費をまだ納めていない方は11月までに納入をお願いします。

会費(年額)

一般(高校生以上): 2,000円
小中学生: 1,000円
家族会員: 3,000円
賛助会員: 1口10,000円



- 2 新規会員を募集しています!ご近所、お友だち、ご家族に入会のお声かけをお願いします。
- 3 「友の会通信」の「会員随想」「研究ノート」の原稿を募集しています。詳しくは事務局まで。
- 4 吉田東伍生家の日本庭園が紅葉の季節を迎えます。サロンコンサートや常設展示の鑑賞とともににお楽しみください。

とんとむかしを聞く会

友の会会員 小野里 澄子 (おのぞと すみこ)

去る8月3日午後、第6回目の「とんとむかしを聞く会」を開きました。話者とお話は、奥村和子さん「三枚のお札」、小内フミさん「三左衛門とおせきのだましどっこ」「へふり嫁」、長谷川まさえさん「おしょうさんとぼたもち」、宮田レイさん「猿のいきぎも」です。

あいにく当日は、外出など控えたいくなるほどの猛暑となって皆様の出足を心配しました。ちょうど貴重なお昼寝の時間だったかもしれません。そんな暑い中をお集まりくださいました方々、4人の語り部さんには心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

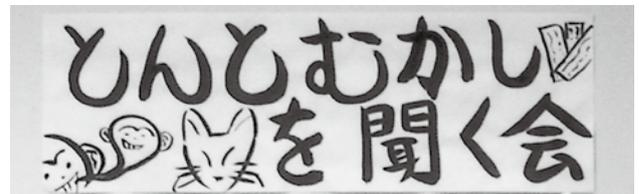
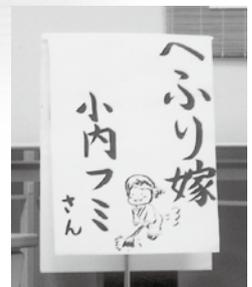
語りは四人四様、それぞれこれまでの来し方に個性が相まって人間味のあふれる語りをしていただきました。時には熱く、あるいは淡々と、また方言の活きのよさに引き込まれました。

幼いころ、いろいろ端やコタツでわくわくしながら祖父母の膝の中で聞いたお話の数々。それが「とんとむかし」の原点ならば、今回の20名に満たない聴衆の人数はまさにその原点に近く、目の前の話者の息づかいはもちろん、鼓動までもが聞きとれそうな予期せぬ効果を生んでおりました。思い

いに腕を組む人、ほお杖をつく人、ちょっと眠くなった人……。クスクス、アハハと会場を包んだゆるやかな空気の流れは、満足した皆さんの気持ちのあらわれだったのでしょう。

来場者に福島県から新潟市へ避難されている方がおり、語りが大好きということで、早速お願いしました。かの地に伝えられた桃太郎を語ってくださいました。私たちが知る筋とは少し違って、それもまた楽しいものでした。ありがとうございました。一日でも早く故郷への帰宅がかかりますように。

最後にもうひとつ。題字・題名を会員のお孫さん、渡辺さくらさん(小6)に書いていただきました。おまけの絵までそえて、会にふさわしいできあがりでした。



吉田東伍記念博物館サロンコンサート Vol.10

木管楽器

～アンサンブルの楽しみ～

日 時／平成24年 11月 4日(日) 11:00開演
(10:30開場、12:15終演予定)

会 場／市立吉田東伍記念博物館
付属「吉田東伍生家」大広間

出 演／新潟メモリアルオーケストラメンバーによる管楽アンサンブル
フルート：栗原茉莉子 福田 聡子
オーボエ：草間 文子
クラリネット：小島佳奈子 渡辺菜緒美
ファゴット：南波 紀子 真辺麻依子
ホルン：飯田美由紀

入場料／友の会会員は無料。
会員以外の方も通常入館料
(一般300円、小中学生150円)のみでご鑑賞いただけます。

申し込み／不要(直接会場にお越しください)

主催：吉田東伍記念博物館友の会

秋の日の午前、吉田東伍生家を気軽に音楽を楽しむサロンに見立てて開催するランチタイム・コンサートです。フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットの木管楽器を中心としたアンサンブルの音色が紅葉の日本庭園に響きます。

編 集 後 記

思いの結実。「庭園能」を観ながら頭の中をかけめぐっていた言葉です。2010年4月の市民文化講演会「佐渡の能楽と能舞台」を起点に、茶話会・講演会・研修旅行・サークル活動において、博物館と友の会が市民協働で積み上げてきたことが集約された一晩となりました。「庭園能」を一つの経験として、友の会は今後も博物館を盛り上げる活動を続けていきたいと思っております。(事務局)